

1 基本姿勢

「開放性」を意識して4つの基本姿勢で取り組む

- 大きな**連携**の輪をつくる
- 試行錯誤**のプロセスを楽しむ
- 地球規模で考え、**足元**から行動する
- バーチャルを使いこなし、**リアル**を大切にする

□ 大きな連携の輪をつくる

ビジョンを実現するためには、社会を構成する多様な主体が役割を分担し、補完し合いながら共に取り組む「連携」が欠かせません。

ビジョンに共感し、共に行動する「連携」の輪が広がるほど、めざす姿の実現に向けた推進力は高まります。そのためには、ビジョンを具体化していくプロセスを透明化し、広く情報を共有する必要があります。つながりから新たな可能性を生むためにも、人も物も情報も資金も、抱え込むのではなく広く共有し、得られた成果もみんなで共有する姿勢が求められます。

□ 試行錯誤のプロセスを楽しむ

社会の課題は複雑化しており、模範となるモデルを探して追随することは難しくなっています。ビジョンの実現に向けては、試行錯誤を繰り返しながら、自分で道を切り拓いていく覚悟が求められます。

大切なのは、実験的な試みを楽しむ姿勢です。めざす姿に近づくために何が必要かを一人ひとりが考え、学習と実践のサイクルをテンポ良く回していく必要があります。また、地域には、そうしていろいろなことにチャレンジする人を歓迎する姿勢が求められます。

失敗から学び、再チャレンジする人を応援する、失敗に寛容な風土を根付かせていく必要があります。

□ 地球規模で考え、足元から行動する

地域を変えるためには、一人ひとりの県民が足元の地域の課題に目を向け、身の回りから解決に向けた行動を起こし、地道に取り組む必要があります。

一方で、気候変動、感染症など世界共通の課題がクローズアップされています。インターネットで世界が一つにつながり、世界の動きが直接地域に影響する時代です。これまで以上に世界で起こっていることに目を向け、世界と地域双方の視点を持って、自分に何ができるかを考える姿勢が求められます。

□ バーチャルを使いこなし、リアルを大切にする

ICTを駆使して生活をより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーションを進め、バーチャル空間を最大限に活用して自由度の高い社会をつくっていく必要があります。

しかし、いくらICTを使いこなして便利になっても、大切なのは人と人とのリアルな交流であり、人の温もりです。リアルとバーチャルのバランスを考える姿勢が求められます。

2 動かす仕組みづくり

実行プログラムの策定

- 地域創生戦略をはじめ各分野計画をビジョンの実行プログラムと位置付け

先導プロジェクトの推進

- 全県ビジョン実現に向けた戦略の重点プロジェクトを推進
- 地域ビジョン実現に向けたプロジェクトを企画・協議する場を各地に設置

対話と学びの場づくり

- 県民が地域の未来を語り合い、考える場づくりを各地で展開

推進状況の見える化

- 推進状況を毎年度公表、状況に応じた見直しに柔軟に対応

(1) 実行プログラムの策定

- 県が定める各分野の基本的な計画はビジョンの実行プログラムとしての位置づけを有します。なかでも最も総合的な計画である「地域創生戦略」はビジョンの主たる実行プログラムとなるものです。
- これらの計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、ビジョンの実現に向けた施策を県を挙げて推進していきます。

(2) 先導プロジェクトの推進

①重点プロジェクトの推進

- 全県ビジョンの実現に向けて県として先導的に取り組む重点プロジェクトの仕組みを整えます。
- 関係する主体が参画するプロジェクトチームを設置するなど、民間の自由な発案を活かす「公民連携」を基本にプロジェクトを推進します。

②地域プロジェクトの推進

- 地域ビジョンの実現に向けたプロジェクトを生み出す仕掛けとして、地域の多様な主体をつなぐプラットフォームとなる協議の場を各地域に設置します。
- この協議の場の運営は、地域ならではのユニークな取組を生む場となるよう地域の自主性に委ねます。

(3) 対話と学びの場づくり

- 今後も未来を考え続けることが大切です。各地域に設置するプラットフォームを中心に県民が地域の未来を語り合い、学び合う場づくりを進めます。
- 次代を担う若者が自分や地域の未来を考え、新しい一歩を踏み出すきっかけになるよう、若者がビジョンを素材に地域について学び、議論し、実践する場づくりを大学などと連携して進めます。
- 県民主体の取組を考える場として、小さな地域単位での多様な対話と学びの場づくりを支援します。
- 対話と学びを通じて県民主体の新しい取組が立ち上がるよう促し、市町と歩調を合わせて支援します。
- 多様な媒体を用いてビジョンの実現に向けた取組の情報を分かりやすい形で発信します。

(4) 推進状況の見える化

①毎年度の点検評価

- 推進状況を毎年度点検評価し、その結果を取りまとめて公表します。

②柔軟な対応

- 社会情勢の変化など状況に応じたビジョンや戦略の見直しに柔軟に対応します。

策定のプロセス

- ・ 21世紀兵庫長期ビジョンの策定から20年、改訂から10年
- ・ 社会が変化する中、兵庫のめざす姿を改めて明らかにするため
県民との意見交換を重ねながら検討

県民の声

- ビジョンを語る会
- ビジョン出前講座
- 地域未来フォーラム
- オンラインでの意見交換
- グループインタビュー
- 個別ヒアリング
- 県民アンケート
- パブリック・コメント

10,000名
を超える県民の声

- 市町ヒアリング
- 県庁若手職員との意見交換、新規採用職員からの意見提案

< 検討体制 >

- [全県ビジョン] 長期ビジョン審議会、新ビジョン企画委員会、将来構想研究会
- [地域ビジョン] 新地域ビジョン検討委員会、地域デザイン会議



21世紀兵庫長期ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経ち、社会が大きく変化する中、兵庫のめざす姿を改めて明らかにするため、県民との意見交換を重ねながら検討を進めてきました。

<ビジョンを語る会>

地域の様々な団体や有志グループと地域の課題や将来像について車座形式で対話（92回 約2,100人）

<ビジョン出前講座>

グループワーク形式で兵庫の未来を考える出前講座を高校、大学等で実施（18回 約2,000人）

<地域未来フォーラム>

新ビジョンの方向性をテーマに地域別にワークショップや意見交換を実施（17回 約580人）

<オンラインでの意見交換>

検討への参画の輪を広げるため、オンライン意見交換ツール「Decidim」を導入（約340人登録）

<グループインタビュー>

新地域ビジョン検討委員会委員や先進的な活動をしている県民を対象に意見交換を実施（約80人）

<個別ヒアリング>

先進的な活動をしている県民や事業者を対象に個別にインタビューを実施（約50人）

<県民アンケート等>

- ・県民意識調査「兵庫の未来を考える」（2020年11～12月 回答者3,041人）
- ・県民モニター調査「兵庫県将来構想試案への意見」（2021年4月 回答者1,073人）
- ・県民モニター調査「今般のコロナ禍の影響と今後の展望」（2020年6月 回答者1,250人）
- ・パブリック・コメント：新ビジョン案への意見募集

<県内市町、県庁職員との意見交換>

- ・市町ヒアリング（全41市町）、意見照会（全2回）
- ・県庁における若手職員との意見交換（約130人）、新規採用職員からの意見提案（約310人）

<検討体制（全県ビジョン）>

- ・長期ビジョン審議会（34名 全4回）
- ・新ビジョン企画委員会（11名 全3回）
- ・将来構想研究会：基礎的研究を実施（9名 全14回）

<検討体制（地域ビジョン）>

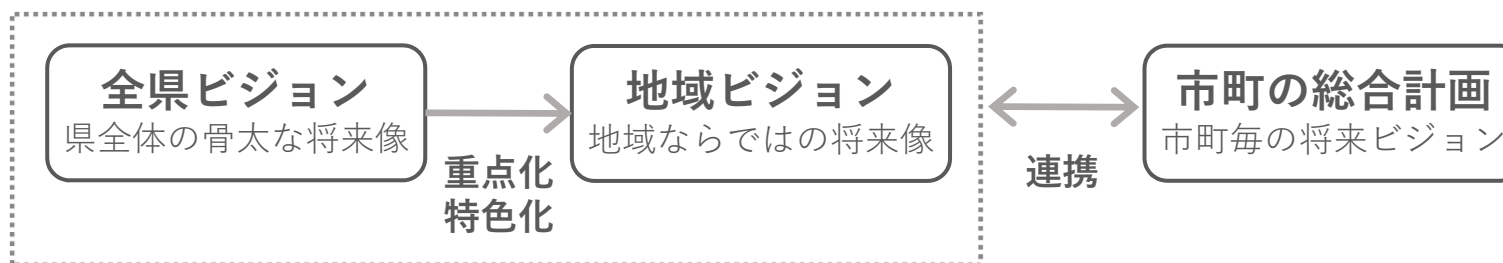
- ・新地域ビジョン検討委員会：各地域15名程度
- ・地域デザイン会議：若者中心に各地の未来像を検討

《 参 考 》

9つの地域ビジョン

多様な地域からなる兵庫の強みをさらに伸ばすため、9つの地域ビジョンを同時に策定

全県+地域
二層構造の
ビジョン



9つの地域のめざす姿

つながる、**たからじま**
～みんなで創るワクワク但馬～

光と水と緑でつなぐ元気西播磨

多様な地域に、個性（ひと）が
輝く中播磨

水辺・ものづくりのまちで
つながりワクワクする未来

人と自然の“環”が広がる淡路島
～食いっぱぐれのない豊かな環境の島～



人と技術の力を活かした、
自然の中での多彩な暮らしの
カタチの創造・発信

田園の恵みが生み出すこちよい
未来の暮らし
～ひょうごのハートランド・北播磨～

(阪神南北は阪神地域で一つのビジョン)

コ・クリエーションが育む阪神地域

みんなの希望にフィットするまち・神戸

《地域の個性を伸ばす9つの地域ビジョン》

兵庫の強みは地域の多様性であり、この強みを伸ばすために、全県ビジョンと一体的に地域ビジョンを策定します。地域ビジョンでは、地域の個性を際立たせる観点から、全県ビジョンの「めざす姿」を重点化、特色化し、地域ならではの将来像を描いています。

<神戸地域>

都市と自然の豊かな空間に、暮らす、働く、楽しむ、どれをとっても多様な選択肢がある神戸。希望に寄り添い、包み込むまち、希望を叶える地域をめざします。

<阪神地域>

多様な人や文化を受入れ、愛着や誇りを育んできた阪神地域。人々が重層的につながるコ・クリエーションにより豊かな暮らしと活力を創造する地域をめざします。

<東播磨地域>

営みの源となる水辺と活力を生み出すものづくりのまち東播磨で、まちや歴史、文化、自然、産業と人とのつながりを深め、心躍る新たな未来を創り出します。

<北播磨地域>

県下有数の水田農業地域である北播磨の田園や、その恵みに新たな未来の技術が融合することで、こちよい未来の暮らしを実現します。

<中播磨地域>

世界に誇る歴史、祭りなどの文化、食や産業など魅力あふれる多様な「地域」が集う中播磨で、個性豊かな「人」が自分らしく活躍できる地域をめざします。

<西播磨地域>

豊かな歴史や自然の景観、受継がれる産業、温かい人のつながりなど西播磨の魅力をすみずみまでネットワークで結んで、地域が元気に躍動することをめざします。

<但馬地域>

豊かな自然、芸術文化、多彩な食など但馬の魅力を発展させ、多様性を認め、人がつながり合い、挑戦できる、誰もがワクワクする地域をみんなで創ります。

<丹波地域>

「丹波の森」は、内外の様々な人たちと結びつきながら、「未来社会の暮らしの実験場、共創空間」となり、新たな価値を生み出していきます。

<淡路地域>

人と自然の良質な関係を築き、多様な資源・魅力を活かすことによって、誰もが安心して暮らし続けられる“食いっぱぐれのない島”をめざします。